
日本ロシア文学会会報 第22号 2004年2月

1. 2003年度(第53回)定例総会報告 2. シンポジウム報告 3. 12月理事会関連事項 4. 会則改正 5. ロシア文学会賞 6. 学会ホームページ開設 7. 新役員、新委員 8. 会員異動 9. 会費納入のお願い 10. 休会制度

2003年度(第53回) 定例総会報告

第53回定例総会、研究発表会は、さる11月1日(土)、2日(日)の両日、大阪外国語大学において開催されました。研究発表会は4会場に分けておこなわれ、44件の研究発表がおこなわれました。また、研究発表以外に、1件のポスター・セッションが開かれました。第1日目の午後に開催された定例総会の内容は、以下の通りです。

開会の辞(川端香男里会長)

総会議長団選出

鈴木正美氏(北海道支部)、石原公道氏(関東支部)、松本賢一氏(関西支部)が議長団に選出され、以後、総会の進行役をつとめた。

会務報告

事務局より2002年10月から2003年10月までの会員異動の報告がなされた。「会員異動」の項を参照)

各種委員会報告

・会誌編集委員長金田一真澄氏より、会誌第35号についての報告がなされた。

・国際交流委員長亀山郁夫氏より、前日(10月31日)におこなわれたプレ・シンポジウムの報告がなされた。

2004年度総会、研究発表会会場について

安藤厚北海道支部長から、2004年度の総会、研究発表会は、10月2日(土)、3日(日)両日、稚内北星学園で開催されることが提案され、了承された。

広報委員会の設置について

学会ホームページの運営を主たる仕事とする広報委員会のたちあげが承認された。井桁貞義副会長が初代広報委員長に就任することが承認された。広報委員会に関する内規も併せ承認された(内規は会員名簿末尾に掲載)。

2002/2003年度決算報告

事務局より2002/2003年度の決算報告がなされた。決算報告の書式については、必要があれば後日修正して、会誌第36号に掲載することとなった。

2003/2004年度予算案の承認。

事務局より拡大理事会の審議を経た2003/2004年度予算案の提案がなされ、承認された。予算案の書式については、必要があれば後日修正して、会誌第36号に掲載することとなった。

チェーホフ没後100年記念事業について

川端香男里会長、亀山郁夫国際交流委員長、沼野充義理事より、来年度に予定されているチェーホフ没後100年記念事業について報告があった。

会則改正について

評議員制の廃止、理事数の削減を骨子とする会則改正案が承認された（新しい会則は、会員名簿の末尾に掲載。「会則改正」の項参照）

会則改正にともなう諸規定の改正について

会則改正にともなう諸規定（新しい規定は、会員名簿の末尾に掲載）の改正が承認された。

ロシア文学会賞選考規定について

新設されるロシア文学会賞の規定および要項が承認された。（新しい規定は、会員名簿の末尾に掲載）

新規役員、委員について

役員、委員の任期満了にともない、新役員、新委員が承認された（「新役員、新委員」の項参照）

閉会の辞（井桁貞義副会長）

シンポジウム報告

10月31日（金）、ロシア文学会総会の前日に、大阪国際交流センターにおいて、「ヴィヴァ！ 聖ペテルブルグの魅力を語る」というテーマで、シンポジウムが開催されました。シンポジウムでは、川端香男里会長の挨拶の後、イワノフ駐日ロシア総領事が挨拶をされ、会員、非会員含めて100名以上の聴衆が集まりました。シンポジウムの報告者、パネリストは、以下の方々です。

望月哲男（北海道大学）

沼野充義（東京大学）

坂内徳明（一橋大学）

亀山郁夫（東京外国語大学）

また、11月1日（土）の総会初日午後には、「若き人工都市ペテルブルグは、いかにして学術・文化情報の発信地となりえたか」というテーマで、シンポジウムが開催されました。シンポ

ジウムの報告者、パネリストは以下のの方々です。

三谷恵子（京都大学）

郡伸哉（中京大学）

鈴木正美（稚内北星学園大学）

ミハイロヴァ（広島市立大学）

橋本伸也（広島大学）

楯岡求美（神戸大学）

望月哲男（北海道大学）

12月理事会関連事項

12月の理事会は12月20日（土）に上智大学四谷校舎で開催されました。主な報告事項および審議事項は以下の通りです。

入会希望者1名（尾子洋一郎氏）の入会が認められた。

2003年度総会、研究発表会の収支報告がなされた。

井桁貞義広報委員長より、総会後に選出された広報委員の紹介があり（「新役員、新委員」の項参照）学会の新しいホームページを近く公開する予定であることが報告された。ホームページには、当面会則および会誌投稿規定を載せ、その他の規約、内規については載せないことが決められた。

国際交流委員の任期満了にともない、新しい委員が選出された（「新役員、新委員」の項参照）。委員長は、新しい内規にしたがい、委員のあいだで互選することとなった（理事会の後、沼野充義氏の就任が決定された）。

その他

* 鈴木正美理事より、2004年度総会および研究発表会の準備状況について報告があった。

* 望月哲男会誌編集委員長より、会誌第36号の編集状況について報告があった。同委員長より、編集委員の連続

性を保証するなんらかの措置が必要なのではないかという提案がなされた。

* 安藤厚理事より、ロシア語教育委員会設置の必要性についての問題提起があった。また、同理事より、センター試験にロシア語試験を導入することを働きかける必要性、学会内に倫理委員会を設置することの必要性が提起された。

会則改正

先頃の総会で、長らく懸案であった会則改正が承認されました。改正された新しい会則は、会員名簿の末尾に掲載しますが、その骨子をお知らせしておきます。

* 理事は従来の 36 名から 24 名に削減する。

* 評議員制は廃止する。

* 学会賞選考委員長、会誌編集委員長、国際交流委員長、広報委員長(新設)、事務局長は、理事の互選によるのではなく、委員の互選によって決定する。各委員長および事務局長は(理事であるかどうかに関わりなく)自動的に理事会の構成員となる。

ロシア文学会賞

優秀報告賞の表彰は、2002 年度で終わり、2004 年度より、ロシア文学会賞が新設されます。第 1 回目の表彰は、2004 年 10 月の総会(於・北海道北星学園)でおこなう予定です。先頃の総会で承認された学会賞に関する内規は、会員名簿末尾に掲載します。

学会ホームページ開設

広報委員会の設置にともない、新しい学会のホームページが開設されます。ホームページは、学会活動の報告や、広報活動、会員相互の意見交換などを目的として運営されます。会員諸氏からの積極的なご意見をお待ちします。ご意見は、広報委員長ないし広報委員(「新役員、新委員」の項参照)までどうぞ。(詳しくは、会報末尾の囲み記事をごらんください)。

新役員、新委員

11 月の総会で、役員の任期満了にともない新役員が選出されました。また、学会賞選考委員、会誌編集委員も選出されました。12 月の理事会で選出された国際交流委員、広報委員とあわせ、お名前を掲載いたします(会長、副会長は任期中です)。

役員

会長：川端香男里(任期中)

副会長：井桁貞義(任期中)

監事：(任期 2003.10-2005.9)

金本源之助、工藤幸雄

理事：(任期 2003.10-2005.9)

北海道：安藤厚、鈴木正美

東北：相沢直樹

関東：井桁貞義、伊東一郎、宇多文

雄、亀山郁夫、金田一真澄、栗原

成郎、佐々木照央、佐藤純一、佐

藤靖彦、沼野充義、長谷見一雄、

坂内徳明、米重文樹、渡辺雅司

中部：中條直樹、安村仁志

関西：諫早勇一、佐藤昭裕、服部文

昭、堀江新二

西日本：芳之内雄二

委員

会誌編集委員：望月哲男（委員長）、相沢直樹、大石雅彦、堤正典、野中進、安岡治子、渡辺雅司、杉本一直、青木正博、石川達夫、西野常夫

学会賞選考委員：川端香男里（委員長、会長が兼務）、工藤正広、中村唯史、伊東一郎、貝澤哉、佐藤純一、沼野充義、郡伸哉、井上幸和、大平陽一、芳之内雄二

国際交流委員：沼野充義（委員長）、貝澤哉、亀山郁夫、鈴木正美、楯岡求美、堀江新二

広報委員：井桁貞義（委員長）、相沢直樹、安藤厚、上原順一、西野常夫、安村仁志

注：会誌編集委員、学会賞選考委員は支部選出委員。国際交流委員、広報委員は支部選出委員ではない。ホームページたちあげにあたって、支部のページを充実させる必要上、広報委員長は、当面各支部から一人ずつ出いただくことになった。

言語観（草野慶子・大石雅彦）
高橋健一郎（札幌大／北海道）言語学、記号論（鈴木淳一、ウジ・ミル・ジターノ）

ユルマワ・スグエトラナ（札幌大／北海道）
プーシンの作品と生涯（教材）、外国語としてのロシア語教育プログラム（鈴木淳一・ウジ・ミル・ジターノ）

高柳聡子（早大院／関東）現代女性作家の散文（井桁貞義・貝澤哉）

松本郁子（京大院／関西）日露交流史（木村崇・服部文昭）

タチヤ・オルヤンスカヤ（北大／北海道）
Linguistics and Intercultural Communication（安藤厚・工藤正広）

神岡理恵子（早大院／関東）現代ロシア文学（井桁貞義・貝澤哉）

朝妻恵理子（東大院／関東）言語学説史（西中村浩・桑野隆）

アキエフ・セルゲイ（ロシア極東大学函館校／北海道）ロシア文学（A・ブラソル・A・ディボフスキー）

佐伯郁智（東大院／関東）20世紀ロシア文学（西中村浩・安岡治子）

会員異動

[敬称略]

入会（申し込み順）（2002年10月～2003年12月）

氏名（所属／支部）専攻分野（推薦者）

本田登（東大院／関東）ダニル・ハムスとロシア・ソビエト（浦雅春・安岡治子）

有泉和子（東大史料編纂所／関東）日露関係史（原卓也・飯田規和）

鈴木剛（三省堂／関東）ロシア語学（井桁貞義・草野慶子）

八木君人（早大院／関東）19世紀末からロシア・ソビエト終焉までの

2003年度維持会費納入者

2002～2003年度（2002年9月～2003年8月）は、次の会員の方々から、維持会費をお納めいただきました。心よりお礼を申し上げます。維持会費を納入された会員のお名前は、会誌第35号に掲載の予定でしたが、都合でそれができなかったことをお詫びいたします。

阿部軍治、天野和男、宇多文雄、小川政邦、垣内智夫、佐藤純一（2口）、中條直樹、津久井定雄、中村泰朗、前川漸（2口）、三浦由香利、米川哲夫（2口）

草加千鶴（創価大院／関東）中世ロシア史、社会史（佐藤純一・藤沼貴）
飯田梅子（東大院／関東）19世紀ロシア文学、トゥルゲーネフ（金沢美知子・長谷見一雄）
尾松亮（東大院／関東）19世紀ロシア文学（金沢美知子・沼野充義）
山田徹也（早大院／関東）ロシア・フオークロア（伊東一郎・草野慶子）
覚張シルビア（東大院／関東）19世紀ロシア文学（金沢美知子・長谷見一雄）
中野幸男（東大院／関東）ロシア亡命文学（沼野充義・長谷見一雄）
岡本法子（北大院／北海道）19世紀ロシア文学（安藤厚・大西郁夫）
秋山学（筑波大／関東）ビザンチン典礼、ビザンツ教会史（臼山利信、加藤百合）
松浦謙二（大阪外大院／関西）外国人学習者へのロシア語教授法（林田理恵・上原順一）
尾子洋一郎（早大院／関東）ゴーゴリ、メディア論（井桁貞義・貝澤哉）

退会（アイウエオ順）（2002年10月～2003年12月）

石原林（西日本）、奥村剋三（関西）
小串克忠（関東）帯谷知可（関西）柏原芳晴（関東）神山孝夫（関西）川岸貞一郎（関東）川崎隆司（関東）黒田龍之助（関東）斎藤俊雄（関東）坂田俊也（関東）坂田美幸（関東）佐藤恭子（関東）佐光伸一（北海道）清水守男（中部）上馬早重子（関西）ジンベルグ菜英（関東）杉浦秀一（北海道）高橋晶子（関西）竹田円（関東）直川誠蔵（関東）田中城次郎（関東）田中豊実（関東）田中則子（関西）田中泰子（関西）中村直子（東北）新田喜代見（関東）芳賀理彦（関東）橋都紅（関西）橋本伸也（関西）匹田軍次（北海道）匹田紀子（北海道）彦坂諦（関東）

平松丈次（中部）平山洋子（関西）古川治（西日本）買買提力提甫（北海道）松川秀郎（関西）松橋薫（関東）三上眞朝子（北海道）森田耕司（関西）矢倉行雄（関東）山崎紀美子（関東）吉田衆一（関東）李弼浣

休会（2002年10月～2003年12月）
ダフコワ・イリーナ（北海道）

会費納入のお願い

会員諸氏のご協力によって、学会会計は少しずつ上向きになってきましたが、安定路線に入った、とは、とてもいえません。学会費未納の方は、この会報に同封した情報にしたがって、未納分の会費をお払いください。情報に間違いがあるかたは、事務局までお知らせください。また、行き違いのある場合はご容赦ください。

領収書は発行いたしません。送金の控えをもって領収書の代わりとします。

支部会費は別に各支部にお支払いください。

休会制度

会報第20号でお知らせしたとおり、ロシア文学会には「休会制度」という制度があります（「休会制度に関する申し合わせ」は名簿末尾に記載）。休会扱いになると、会員としての義務、権利とも停止されますが、正規会員として名簿上は残ります。原則として、2年以上日本を離れる会員が、この制度を利用できます。長期留学される会員、ロシアに帰国されるロシア人会員は、この制度をご利用ください。

広報委員会よりお知らせ！！

学会の新しいホームページを、以下のURLで試験的に公開いたしております。インフォメーションやご意見、ご感想を、ぜひ広報委員（「新役員・新委員」の項参照）までお寄せください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/robun/>

日本ロシア文学会会報第22号
(2004年2月20日発行)
発行人 川端 香男里
編集人 日本ロシア文学会事務局
〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町
7-1 上智大学外国語
学部ロシア語学科原研究
室内